

1 調査名称：令和3年度新庄市都市計画道路見直し検討業務

2 調査主体：新庄市

3 調査圏域：新庄市管内

4 調査期間：令和3年度

5 調査概要：

新庄市の都市計画道路は、本市の都市計画マスタープランにおいて、「計画の必要性や事業の実現性等を総合的に検証し、計画の見直しや廃止を進める」とされている。

このことから、長期未着手の都市計画道路について、道路機能の検証・代替路線の確認・事業可能性の検証を行い、今後の方向性について道路管理者と調整のうえ整理するものである。

なお、令和3年度の本調査は、令和2年度新庄市都市計画道路見直し検討業務（将来交通量推計の現況再現など）を踏まえて現況再現の修正、将来交通需要推計（現都市計画道路ネットワーク）等を実施したである。

I 調査概要

1 調査名称：令和3年度新庄市都市計画道路見直し検討業務

2 報告書目次

目次

1. 業務概要.....	1
1-1. 業務の目的.....	1
1-2. 業務概要.....	1
1-3. 業務項目.....	1
1-4. 業務対象の位置図.....	2
1-5. 作業のフローチャート.....	3
2. 現況再現の修正.....	4
2-1. 交通量配分方法.....	5
2-1-1. 交通量配分の流れ.....	5
2-1-2. 交通量配分手法の概要.....	6
2-1-3. 配分条件.....	7
2-2. 交通量配分の実施.....	18
2-2-1. OD表の作成.....	18
2-2-2. 配分ネットワークの作成.....	48
2-2-3. 現況交通量配分.....	49
3. 将来交通需要推計.....	63
3-1. 検討結果の概要.....	63
3-2. 将来交通量の推計（2ケース）.....	64
3-3. 交差点需要率の計算.....	84
3-3-1. 交差点需要率の算定手順.....	85
3-3-2. 日方向別交通量.....	85
3-3-3. ピーク時方向別交通量.....	87
3-3-4. 交差点需要率の計算.....	92
4. 住民説明会の開催補助.....	97
5. 関係機関協議.....	102
6. 都市計画審議会説明資料作成.....	104

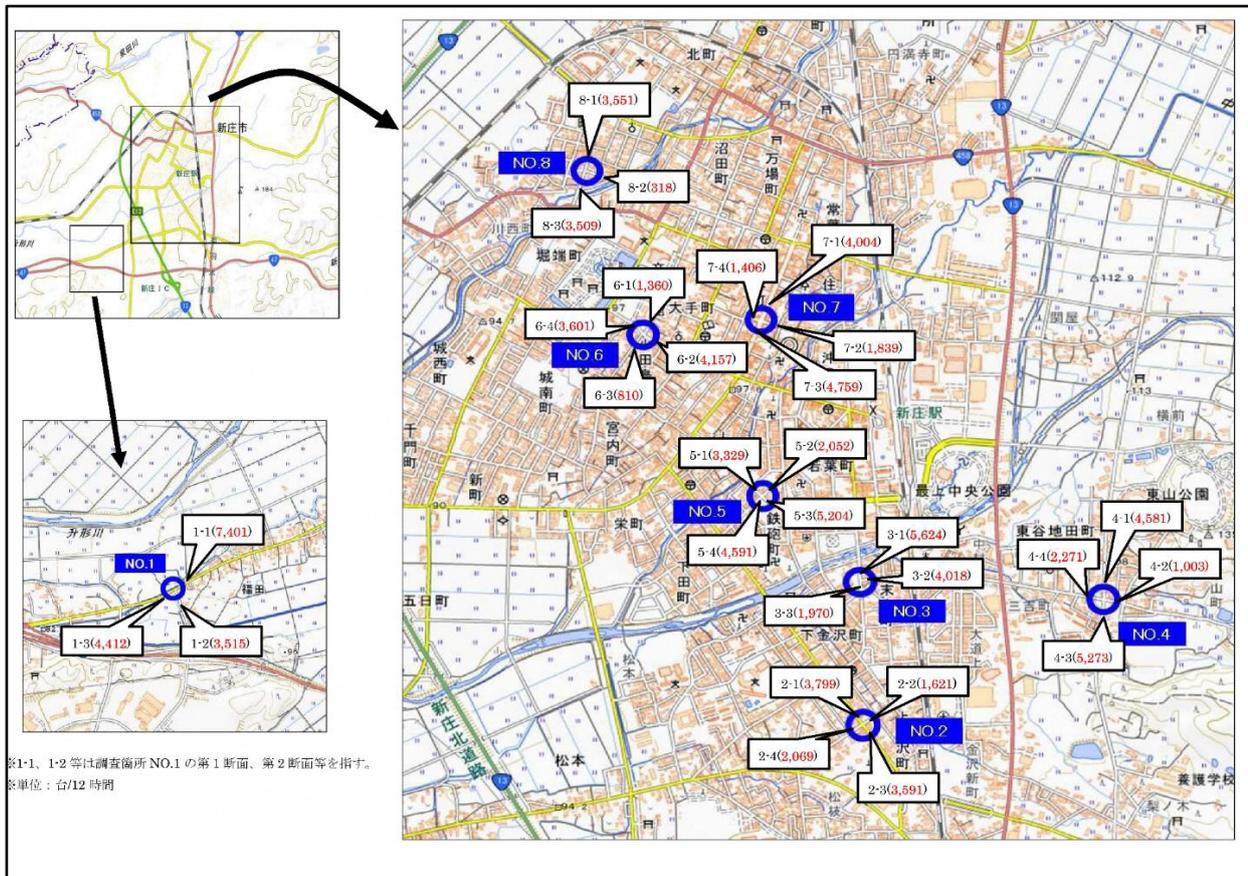
- 3 調査体制
調査に関する委員会等は開催していない。
- 4 委員会名簿等：
なし。

4 調査成果

(1) 現況再現の修正

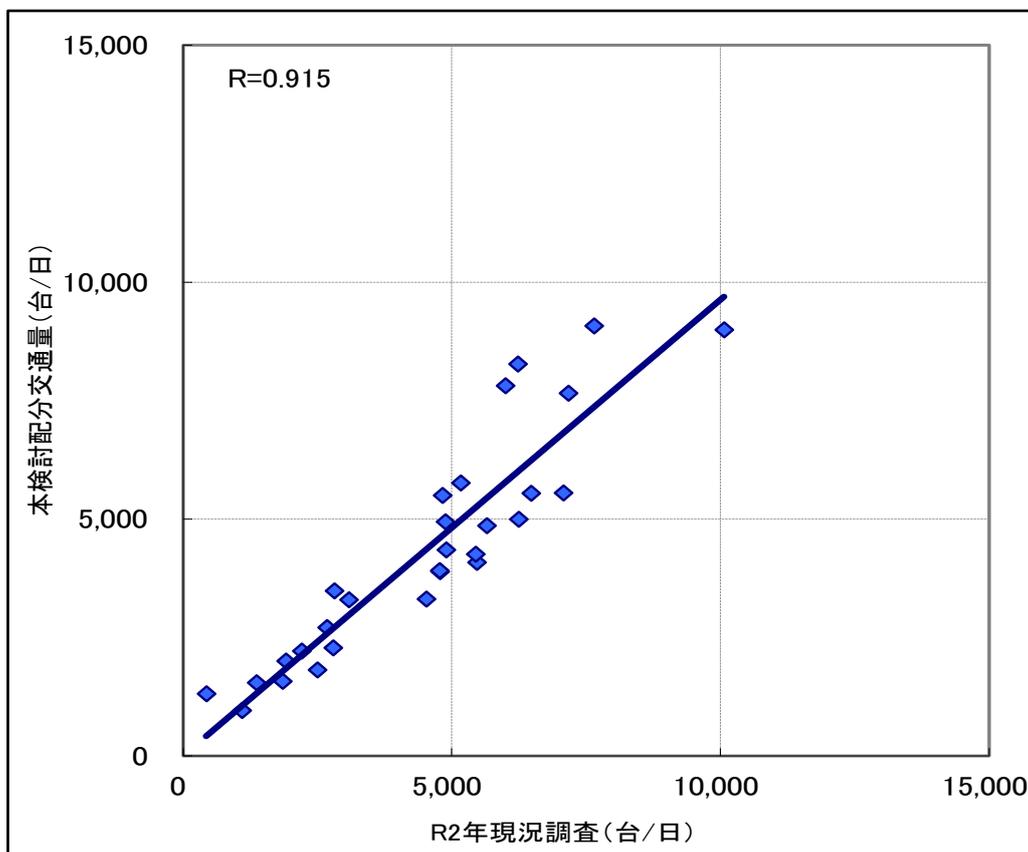
R2年度に「新庄市都市計画道路見直し検討業務委託」内で将来交通需要推計（現況再現）を実施したが、新庄市の管理道路については現況の交通量が不明であるため、精度検証ができなかった。

推計の精度を高めるため、「新庄市都市計画道路見直し検討に伴う交通量調査業務委託（R2年度）」では新庄市内の8箇所を対象に12時間の方向別交通量を調査した。R2年度の交通量調査結果を用いて現況再現の修正を行った。



その結果、新庄市の管理道路区間における現況の再現率は、相関係数 0.9 以上であり、現況再現性が確保されていると判断できる。

図 3-3 現況配分の相関図



(2) 将来交通需要推計

新庄市都市計画道路見直し計画の定量的な検証を行うための基礎資料として、将来交通量推計を実施し、推計の結果を基に、見直し後に形状が変更となる交差点の方向別交通量と需要率の計算を行った。

ア 混雑度の確認

将来交通量推計により現決定および廃止後の将来の混雑度を確認した。

廃止後においても新庄市内で混雑度1.75を超える顕著な渋滞が見られないため、金沢下西山線、沼田角沢線と東山仁間線の3区間の廃止による交通への影響がないことがわかった。

イ 交差点需要率の確認

廃止後の交差点形状における交差点需要率を確認した。

廃止後に形状が変更となる4交差点は、需要率の上限値（0.886：交差点が飽和状態になる上限値）を超えないため、将来において交通処理上の問題がないと考えられる。

表 3.1 形状変更のある交差点の需要率計算結果

	交差点名称	需要率	需要率の上限値	判定結果
A	3・4・2 新庄駅小田島線（仮）堀端町交差点	0.212	0.886	需要率が上限値を超えないため、問題なし
B	3・4・4 北本町飛田線（仮）宮内町交差点	0.292	0.886	
C	3・4・4 北本町飛田線 大町交差点	0.165	0.886	
D	3・4・9 東山末広線 末広町交差点（仮）	0.255	0.886	

【凡例】	
改良済み	— (黒線)
概成済み	— (青線)
継続区間 (検討)	— (緑線)
廃止区間 (検討)	- - - (赤点線)

